

事業分類		<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> 必需		公的関与		2		作成日		30年 6月 26日		
事務事業名		母子保健事業費						シート作成部署				
総合計画上の位置付け	基本施策	2 人にやさしいまち						課名	健康づくり課	係名		
		2-1 健康に暮らすまちをつくる						シート作成者				
	施策	2-1-1 自らの健康づくりの推進						予算費目	会計	一般		
									款	4		
主要施策	③ 母子保健の充実						項		1			
							目		3			
個別計画名												
住民との関わり		特になし										
事業の対象・目的・内容	対象（誰を、何を）				目的（どういう状態にしたいのか）							
	乳幼児と保護者				子どもの健やかな成長を支援するため、育児不安の軽減を図り、安心して子育てができる環境づくりを行う。							
事業内容（どのような方法で、何を行うのか）		乳幼児教室や幼児健診は個人通知を行い、教室の参加や健診の受診の勧奨に努めている。母子保健推進員や保健師が全乳児家庭を対象に訪問を行い育児支援を推進している。										
事業期間		昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 年度		～		平成 年度		( 年間)		<input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし		
根拠法令・要綱等		母子保健法、児童福祉法										
		平成28年度（決算）			平成29年度（決算）			平成30年度（予算）				
全体事業費（千円）A+B		0			32,329			42,163				
財源内訳	国庫支出金					749			725			
	県支出金					523			694			
	地方債											
	その他特定財源					287			224			
	一般財源					30,770			40,520			
直接事業費（千円）A					32,329			30,613				
人件費（千円）B		0			0			11,550				
内訳	一般職員（人・千円）		人 0		人 0		1.75 人		11,550			
	臨時職員（人・千円）		人 0		人 0		1.31 人		0			
成果指標	成果指標名				単位	29年度		30年度	31年度			
						目標	実績	(目標)	(目標)			
	①	集団幼児健診受診率			%	100.0	97.6	100.0	100.0			
	②	母子教室等への参加者数			人	500	584	600	600			
③												
説明	母子保健法に規定された幼児健診の受診率並びにマタニティ教室、すくすく教室、離乳食教室及び育児相談の参加者延べ人数を指標とする。											

事業名	母子保健事業費	シート作成課	健康づくり課
-----	---------	--------	--------

一次評価者	健康づくり課長	二次評価者	福祉部長
-------	---------	-------	------

評価項目の説明	チェック項目		一次	二次	一次の評価又は説明			
	必要性	1. 事業開始時の目的を概ね達成するなど実施意義が低下している。 2. 社会情勢の変化など時の経過とともに事業開始時の目的が変化してきている。 3. 利用者、対象者の減少など住民ニーズの低下傾向がみられる。 4. 住民ニーズを上回るサービス提供となっている。 5. 国や他市町と比較するとサービスの対象や水準を見直す余地がある。 6. 国や県のサービスと重複している。 7. 民間のサービスと競合している。 8. 厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		母子保健法第12条において、市町村は1歳6か月及び3歳児健康診査を行うことが義務づけられています。また母子の健康維持や子どもの健やかな成長を支援するため各種教室等を開催しています。		
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。 2. 施策への貢献度が著しく高いとはいえない。 3. 施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。 4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			幼児健診や家庭訪問等で経過観察が必要な子どもに療育教室等を紹介しています。	
	達成度	1. 事業開始時の目標設定に比べて進捗状況が劣っていると思う。 2. 事業開始時の目標に比べて成果があまり上がっていないと思う。 3. 概ね目標を達成していると思う。 4. 十分に目標を達成していると思う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				乳児の家庭訪問は地域の住民である母子保健推進員が担当しています。必要に応じて保健師や助産師も訪問保健指導を実施しています。
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い（他市町や類似業務を行う民間に比べて）。 2. 現在の事業実施主体の他に効率的に事業を実施できる主体がある。 3. 他の実施主体のノウハウを活用できる。 4. 他の実施主体を活用しても公平性・公正性等が担保され、行政責任が問われない。 5. 事業実施している人員、手段等の見直しによりコスト削減の余地がある。 6. 電子化等の事務改善によりコスト削減の余地がある。 7. 契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
<b>本事務事業の実施適切性の説明</b>								
特色ある教室の内容を取り入れ、今後も母子保健事業を推進する必要があります。								

一次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	
		4	4	3	4	B	A
	今後の方針	休・廃止		見直し	継続	拡大	
今後の改革・改善目標	育児に不安を持つ母親の多くは、一人で育児を行っています。健やかな子どもの育ちと、母親が安心して育児に臨めるよう、父親が積極的に育児に係わることができるよう、支援していくことが必要です。また地域で子育てに取り組めるような仕組みづくりも、今後は必要と思われます。						

二次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	
		4	4	3	4	B	A
	今後の方針	休・廃止		見直し	継続	拡大	
コメント	母子の心身の健康相談、健康教室、各種健診への参加を促し、育児支援を推進します。						

二次評価に対する課の考え方							
参画協働の今後の方針	いつから	平成	年度から	1	現在の手段を継続する		